

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

↓ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		今後も理念を追求し、地域の中でその人らしく暮らし続けることのできるよう、支援に努めていきたい。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		職員全員が理念に対する意識を高め、一丸となってケアを実施できるよう努めていきたい。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		まだまだ「施設」という見方が強い様なので、家族には「お父さん(お母さん)の家」、地域には「お隣さん、地域の同じ住民」だと思ってもらえよう関りに努力していきたい。
(
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		ホームにいつでも気軽に立ち寄っていただける様、環境作りに努めたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		これからも参加を増やし、地域の人々との交流に努めたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	ホーム見学や相談には、親切丁寧に応じている。		ホームで地域に貢献できることは何か？地域から望まれていることは何か？話し合いをし交流を深めていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価や外部評価を実施することで、全職員一人ひとりが業務を振り返ることが出来ている。評価を受けたことに対しては、全員で話し合い改善に取り組んでいる。		自己評価、外部評価の意義を重んじ、常に問題意識を持ち、サービスの向上に努めていきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、事業所のサービス状況、行事、意見要望等について報告、話し合いを行ったり、ホームの行事と一緒に参加してもらったりし、地域に開かれたホーム運営を目指し、サービス向上に努めている。	○	開催頻度が、2ヶ月に1度となっているが、なかなか開催できていない。今後の課題としている。他のホームに参加依頼をしたり、逆に参加させてもらう機会を増やし、サービス向上に活かしていきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	相談や分からない事がある時は、市町村担当者の協力を得て、サービスの質の向上に取り組んでいる。		今後も、より一層協力体制を強化し、サービスの質の向上に努めていきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現状では必要とされる方がいらっしゃらないが、必要があれば活用し支援できる体制である。		全職員が制度を理解し支援できる様、今後勉強会等で学ぶ機会を持っていきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	勉強会に参加したり、日々の関りの中で虐待が見過ごされないよう、虐待防止に努めている。		虐待はあってはならない事なので、今後も常に心にとめ、防止に努めていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約の際は、利用者や家族が理解・納得していただき、不安にならない様十分に説明を行なっている。</p>	<p>不安や疑問点があれば、いつでも聞いてもらえるよう配慮し、常に納得してもらえるよう努めていきたい。</p>
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者の声や態度を尊重し、受け止めるよう努めている。また声や態度で表現された事は、全職員が共有し運営に反映させている。</p>	<p>利用者の方は思いを表現する事が困難な為、わずかな変化や表現にも注意を払い、受け止める努力を続けたい。</p>
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月個別のおたよりや面会時に報告している。必要があれば都度電話等で、報告している。</p>	<p>今までの報告方法を継続していきたい。又、ホーム内に掲示板を設ける等し報告方法を検討していきたい。</p>
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>玄関にご意見箱を設置しているが、意見はほとんど寄せられてない。</p>	<p>○</p> <p>意見を待つのではなく、意見を尋ねる機会を増やしたり、環境、関係作りに努め、運営に反映させていきたい。</p>
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>月に2回の会議の際、必ず意見や提案を聞いている。またそれ以外にも何かあれば聞くようにしている。</p>	<p>今後も今まで以上に、職員の声を大切にし、運営に反映させていきたい。</p>
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>利用者の状況や必要性に応じて勤務時間の変動があることを、職員採用時に理解してもらっており、調整できる体制であり調整できている。</p>	<p>今後も柔軟な対応ができるよう、努めていきたい。</p>
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>離職者はほとんどない。離職がある場合は、それまでの期間に新しい職員との引継ぎを充分に行なっている。</p>	<p>今後も離職者を最小限に抑える努力と、代わる場合は利用者へのダメージを防ぐ様、引継ぎを充分に行なうよう努めたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で勉強会をしたり、外部研修の案内を回覧し参加を促している。外部研修の参加費用は法人負担とし、参加しやすい体制をつくっている。GH協会主催の事例研究発表への取り組みも行なっている。	段階的に取得できる資格を取得する等、全職員が常に自己研鑽に努めたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他グループホーム職員の研修を受け入れたり、他グループホームで研修させてもらったりし、学習や交流の機会を図った。	今後も他グループホームとの交流を深め、サービスの質の向上に努めていきたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員それぞれの状況を把握できるよう努め、問題を早期に解決できるよう努めている。職員間の親睦も図っている。	常に全職員に気を配り、ストレスにならない環境づくり、悩みの聴取、職員間の親睦、同業者との交流等の取り組みに努めたい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員個々の努力や実績を把握し認め、今以上に向上心を持って働けるよう努めている。	全職員が、常に意欲的で向上心を持ち働ける環境作りに、今後も努めていきたい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談の時点から、本人及び家族との話し合いの場を設け、十分に思いを受け止める努力をしている。	今後も全職員が、信頼関係の重要性を理解し築いていく事が出来る様、努力を続けていきたい。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用される本人は勿論だが、家族との信頼関係を築いていく為にも、思いを十分に汲み取り安心していただけるよう、努めている。	今後も全職員で、話を聴ける雰囲気、環境づくりに努めていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた場合は、本人と家族が必要としていることは何かを充分に見極め、必要に応じ他のサービスの情報を提供する等し、より適したサービスを利用出来る様支援している。		今後も情報のアンテナを広げ、より適したサービス提供が行なえるよう努めていきたい。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人が可能であれば、何回でも遊びに来てもらえる体制である。また必要であれば、こちらから出向く事もある。また共用型通所介護で馴染んでもらってからの入居も可能となった。		本人の状態や思いを尊重し、決して無理の無いよう、家族等と相談しながら工夫していきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の大先輩として尊敬しながら、共に喜び悲しみ支えあう事が出来る様、努めている。		職員の一方的な介護にならない様、常に振り返りや意識付けをしながら、今後も支えあう関係を築いていきたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	支援していくには、家族の協力なしでは、困難な事は充分理解している。家族と職員が同じ立場で本人の支援が出来る様、関係作りに努めている。		全職員が共に生活し、支えあえる関係が築けるよう努力していきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	個々の家族関係を十分に把握し尊重し、より良い関係作りを支援できる様努めている。		今後も全職員で、情報を共有しより良い家族関係が築いていける様努力していきたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族等から本人のこれまでの生活の状況を収集し、話を合わせたり面会や外出等で、大切なものとの関係が継続できるよう支援している。		「大切なもの、馴染みのもの」の重要性を更に理解し、全職員で関係が途切れない環境づくりに努めていきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者一人ひとりを尊重し、利用者同士の良い関係を築くため、その時その時の状況を把握し、嫌な思いをされないよう対応している。		利用者一人ひとりの性格、利用者同士の相性等を十分に把握し、ホームでの共同生活を楽しく、穏やかに送れるよう努力していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	利用を終了されても、行事への参加を呼びかけたり、時々状況を尋ねるため訪問したり、連絡をしている。しかし利用修了者が亡くなると、家族との関係が疎遠になりがちである。		継続的な関わりが必要な利用者や家族には、関係を大切につきあっていきたい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりを尊厳しその人らしい生活が送れるよう、本人や家族の意向を把握しプランを作成している。		今後も本人や家族の意向を十分に把握する努力をおこない、ケアをする中でも、常に「本人の意向にそっているのか？」問題意識を持ってケアにあたる努力をしたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際、また入居されてからも、情報収集に努めている。知り得た情報は全職員が共有し、ケアの統一に努めている。		本人の過ごして来られた暮らし方を、可能な限り継続できるよう、本人の把握、これからの支援に対する検討に努めていきたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	全職員が利用者一人ひとりを常に把握できるよう観察し、記録や申し送りの徹底に努めている。		職員の見る目を養い、情報を豊かにし、総合的に把握できるよう、努めていきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画を作成する際は、本人、家族の意向また主治医や職員等関係者の意見やアイデアを反映し作成に努めている。		本人がより良く暮らす為の介護計画になっているのか、常に考えながら、今後も作成に努めていきたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間に応じて見直しをしている。また状況に変化が生じた場合は、都度話し合い本人の現状に即した、介護計画作成に努めている。		全職員が、今後更に本人の現状把握に努め、本人の現状に即した、介護計画作成に努めていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や、ケアの実践・結果を利用者個別に記録し、全職員が情報を共有し、見直しや新たな立案に活かせるよう努めている。	○	ケアプランに基づいた記録が出来ていない部分がある。記録の方法を全職員で検討しなおしたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	少人数だからこそ個別の対応が可能で、柔軟な支援ができるよう努めている。		今後も本人や家族の状況や要望の把握に努め、柔軟な支援ができる様、全職員で対応に努めたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	行事の際は地域のボランティアに協力していただいたり、消防訓練や応急手当の勉強会には地域の消防署の協力をいただいている。		今後更に地域資源を活用し、利用者本人がより良く暮らし続けるための努力をしていきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現在歯科医師による訪問診療居宅療養指導のサービスを利用されている方が数名いる。		今後も個々の意向や必要性に応じた支援に努めていきたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在、必要としている利用者がいないため協働していない。	○	今後は必要となる可能性は充分ある為、職員全員が制度の内容を理解できる様勉強し、地域包括支援センターとの協働に備えていきたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	現在希望に沿ったそれぞれのかかりつけ医の訪問診療を受けておられる。各々24時間体制で緊急時の対応ができるようになっている為本人や家族からは「安心」の聲がきかれています。		今後も適切な医療が受けられるよう、医師との連携に努めていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		<p>協力医は認知症に詳しく、職員の疑問や質問にも気軽に対応してもらっている。利用者も医師の顔を見て安心されている。</p> <p>今後も全職員が、医師との連携に努めていきたい。</p>
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		<p>訪問看護ステーションと委託契約を結んでおり、日常の健康管理や医療支援をしている。24時間連絡可能な体制である。</p> <p>かかりつけ医や協力医との連携もできており、今後も適切な医療支援に努めたい。</p>
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		<p>利用者が入院した場合は協力医と一緒に病院に出向き、担当医から現状の説明を受け、情報交換を行ないながら今後の方向性を話し合っている。</p> <p>全職員が状況の許す限り利用者の面会に行き、馴染みの関係を絶たない様努めている。</p>
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		<p>まず契約時に指針の説明を行い、本人や家族の意向を確認している。そして重度化した場合はさらに十分な話し合いを繰り返し、納得のいく方法でその時を迎える事ができる様努めている。</p> <p>全職員で本人や家族の思いに添った過ごし方を支援し、最後までより良い人生が過ごせる様努めていきたい。</p>
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		<p>本人や家族の状況に応じ、必要なことを十分に把握したうえで、事業所としてどこまで可能か話し合いをし、チーム全員で支援できる様努めている。</p> <p>今後もチームが一丸となって取り組むことができる様努力していきたい。</p>
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		<p>情報の提供を充分に行い、また移り住んだ後も情報交換を行い、リロケーションダメージを出来るだけ防ぐ事ができる様努力している。</p> <p>これまでの経過や今後予測される問題等含め、十分な情報提供・情報交換に努めたい。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>		<p>人生の大先輩として尊敬した対応ができるよう、常に心がけている。</p> <p>今後も日々のケアの中で、心がけや振り返りを続けていきたい。</p>
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>		<p>認知症の進行に伴い表現力や理解力が低下して行く為、本人の思いを引き出すことのできる様な工夫を行なっている。</p> <p>今後も思いを引き出せるような働きかけや、理解してもらえるような説明を工夫しながら支援していきたい。</p>
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>		<p>職員の業務マニュアルを作らず、入居者のペースを優先し希望にそった対応ができる様努めている。</p> <p>業務マニュアルを作らず、入居者優先の業務を充実させる為には、スタッフのケア能力・連携が重要である。今後更に努力していきたい。</p>
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>		<p>一人ひとりの希望、個性、生活歴に応じて髪型や服装の選択ができる様支援している。行きつけの美容室に行ったり、本人の望む髪型にし、その人らしさの維持に努めている。</p> <p>一人ひとりの習慣や希望を把握し、その人らしさの維持に努めていきたい。</p>
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>		<p>献立決め・買い物・調理・味見・片付け・・・何らかの形で食事に携わるようにし、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。</p> <p>今後も入居者の好みや力を活かし、食事を楽しむことのできるよう支援していきたい。</p>
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>		<p>希望に応じ楽しんでもらえるよう支援している。体調や疾病により制限がある場合は、本人・家族・主治医と相談し出来る限り希望に合わせる事ができる様支援している。</p> <p>今後も本人の希望に添える様、努めていきたい。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人ひとりの排泄パターンや習慣を把握し、手すりや台などを工夫し気持ちよく排泄できる様努めている。		排泄チェック表を活用し、一人ひとりに応じた排泄ができる様今後も努めていきたい。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴できる体制である。拒否がある場合はタイミングが合う時に入ってもらっている。現在は全員が昼間に入浴されているが、夜間に入浴希望があれば対応できる体制ではある。		今後も希望に合わせて楽しんで入浴できるよう支援していきたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣にあわせ、ベットや布団を準備している。睡眠や休息のパターンを本人のペースにあわせ、気持ちよくやすめるよう努めている。		自ら訴えることが困難な方に対しては、十分な観察を行い、安心して休息ができる様支援に努めたい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴や趣味を把握し、出来る力を見極め、自信や喜びを感じてもらえるよう支援している。		今後も張り合いや喜びを感じ生活を送ってもらえるよ、全職員で支援に努めていきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望や力に応じお金を所持してもらい、自由に買物ができるよう支援している。		お金を持っていると置き場所を忘れ、逆に不安や混乱の原因となる場合がある。今後も安心できる支援に努めたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	希望に応じ外出ができる様支援している。自ら希望されない方にも、出来るだけ外出の機会を持つよう努めている。毎日の買物も出来るだけ多くの方が行ける様支援している。		今後も本人の希望に応じた外出支援ができるよう、全職員で取り組んでいきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	お花見やお祭り・初詣など、季節を感じてもらえるような外出をしたり、個別に家族旅行なども自由に行ける様支援している。		職員は勿論、家族やボランティアなどの協力も得ながら、今後も外出支援に取り組んでいきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じ対応している。電話の声が聞こえにくかったり、手紙の文字が書けない場合は、職員が代行するなどして支援している。		希望される方が少ないので、希望を尋ねるなどして、機会を増やす様努めていきたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	他の利用者や職員も一緒に楽しい時間を過ごしたり、個別にゆっくり過ごしてもらったり、状況に応じ居心地良く過ごしてもらえるよう工夫している。		いつでも気軽に訪問できる雰囲気作りを今後も継続して工夫に努めていきたい。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修会や事業所内での勉強会で理解を深め、拘束のないケアに努めている。		身体拘束だけではなく、精神面での拘束にも気を配りながら、今後も注意深く取り組んでいきたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけることの弊害を理解し、日中は鍵をかけていない。その為に職員の見配り・気配りが重要である。業務上目を離さざるを得ない場合も考えられる為、センサーを設置し利用者の行動把握に努めている。		利用者の行動だけでなく、職員同士の状況把握も重要であり、連携を強化し取り組んでいきたい。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員はホーム全体を把握できる様注意深く観察するとともに、職員間の声がけや連携を充分に行なうよう努力している。		すぐに外に出ようとされる方や転倒などの危険性が高い方への、プライバシーや安全性の配慮が特に重要なため、今後も努力していきたい。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険な物品の取り扱い・保管・管理の徹底、使用中の見守りを怠らないよう取り組んでいる。		植木の剪定・縫い物・調理など生活の中での楽しみや生きがいとされている方も多いため、今後も危険防止を徹底し支援していきたい。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	リスクマネジメント研修会・緊急時の応急処置の勉強会・火災訓練・緊急時マニュアル等で、事故防止に取り組んでいる。		事故防止への意識を常に持ち、起きてしまった事故に対し原因や対応策を全職員で話し合い、事故防止に努めていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	応急手当の訓練は消防署の協力を得、定期的に指導・訓練を受けている。		全職員で対応できる様、今後も訓練に努めていきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災時の避難訓練や消防訓練は実施しているが、他の災害に関する訓練が十分出していない。	○	地域の協力体制も含め、今後一層対策に努めていきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	家族に対しては、入居時や必要に応じ都度起こり得るリスクについて説明を行なっている。また全職員で、利用者が自由に暮らせるようリスクを配慮しながら支援している。		ヒヤリ・ハット報告書などを活用し、事後防止に対する対策を、今以上に徹底していきたい。
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタルチェック・食事摂取状況などいろいろな面で、普段の様子やいつもと違う様子を見極めができる様努めている。異変があった場合は速やかに正確な報告ができるよう努めている。		異変があった場合は申し送りを徹底し、全職員が把握できるよう努力していきたい。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの病気や薬についての勉強会をおこなっている。症状の変化の確認ができる様努力している。		薬の変更もあるので、常に勉強会など理解できるよう努力していきたい。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食物繊維の多い食材や、ココア・ヨーグルトを毎日摂取したり、身体を動かす働きかけや落ち着いて排泄できる環境作りに努めている。又排泄表を記録しチェックを行ない一人ひとりの排泄状況を把握し便秘の予防に取り組んでいる。		今後も飲食物での工夫や運動など、一人ひとりにあつた方法で予防に努めていきたい。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	一人ひとりの状態や力に応じた方法で毎食後の口腔ケアに努めている。必要に応じ訪問歯科の居宅療養管理サービスも利用している。		出来るだけ自分でしてもらい、出来ないところは支援している。また個々に応じたブラシや洗浄剤を使い分けている。今後も口腔内の清潔保持に努めていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養のバランスや体調・運動量を考慮し、十分な栄養と水分が摂取できる様支援している。また一人ひとりの状態や力に応じ、食事形態や調理法の工夫をしている。	必要に応じ主治医や家族と相談しながら、栄養摂取・水分確保に努めていきたい。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症予防マニュアル等で周知徹底に努め、手洗いの徹底や予防接種をおこなっている。	今後も勉強会などで、全職員で徹底していきたい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	衛生管理チェック表で台所や調理器具などの消毒を行なっている。食材もほとんど毎日買物に行っている。野菜などはほとんどホームの畑で作っているため安全である。	新鮮で安全な食材を衛生的な環境で調理し提供できるよう、今後も努めていきたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	季節に応じた花を植えたりして親しみやすい雰囲気を心がけている。車椅子や歩行が不安定な方でも安全に出入りできるよう、スロープやてすりを設置している。	今後も親しみやすい雰囲気づくりや、出入りしやすい環境整備に努めていきたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間の南側はほとんどがガラス戸でその先には田畑が広がっていて季節ごとの作物を見ることができる。またそこから自然の光が充分入るような構造になっている、光の強さもブラインド調整できている。照明器具は温かみのある電球を使用している。	共用スペースにこそ個々の居心地の良さに配慮し、音や光・雰囲気の調整や工夫に努めていきたい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中にもそれぞれの居場所があり、独りの時間や気の合う利用者同士で思い思いに過ごされている。	利用者の状況に応じ常に観察しながら、居場所の工夫に努めていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	持ち込みは自由でそれぞれに使い慣れた家具や好みの衣類等を使用され、今までの生活環境との変化が少ないよう工夫している。		利用者の状況に応じ常に観察しながら、居場所の工夫に努めていきたい。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	建物全体が24時間換気になっており、特に気になる時には換気を強化している。		体温調整機能の低下された利用者もおられる為、今後も換気・空調への配慮に努めていきたい。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	椅子やソファ・トイレ・ベットなど一人ひとりの身体機能に応じ対応できるよう工夫している。		ハード面の整備は勿論だがこれには制限がある為、職員が目配り・気配りを充分に行い利用者の安全で自立した生活を支援していくことに努めたい。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	定期的にモニタリングを行い、出来るだけ自立した生活が送れるよう支援し、持っている力をフルに活用し、出来ないところはさりげなく介助している。		状況に応じ力の変化がある為、常に一人ひとりの力を把握し自立した生活が送られるよう努めていきたい。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物の周りにある広場でゲートボールを楽しんだり、畑で野菜をつくるなど、自由に使用されている。動けない方には日光浴をしてもらうなど活用している。		今後も今以上に活用し楽しみの場となるよう工夫していきたい。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="checkbox"/>	①ほぼ毎日のように
		<input type="checkbox"/>	②数日に1回程度
		<input checked="" type="checkbox"/>	③たまに
		<input type="checkbox"/>	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="checkbox"/>	①大いに増えている
		<input type="checkbox"/>	②少しずつ増えている
		<input checked="" type="checkbox"/>	③あまり増えていない
		<input type="checkbox"/>	④全くいない
98	職員は、生き活きと働いている	<input type="checkbox"/>	①ほぼ全ての職員が
		<input checked="" type="checkbox"/>	②職員の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	③職員の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="checkbox"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="checkbox"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="checkbox"/>	①ほぼ全ての家族等が
		<input type="checkbox"/>	②家族等の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	③家族等の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

ホームにある畑で季節毎の色々な野菜を作っており、その野菜を収穫しほとんど毎日食べている。収穫や調理は利用者も一緒におこない生きがいと楽しみを感じてもらえる事が出来ている。また毎月個別のおたよりを作成しホームでの様子を写真で報告している。家族の方から大変喜ばれ今後も続けていきたい。